

# ○「専門家を招き地区連を実施」

(京都府木津川市第1回地区連絡会議)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他  
(農業委員会の  
体制強化等)

## 1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年9月28日午後2時から
- 場 所: 木津川市役所
- 出席者: 農地最適化推進委員16人、事務局2人  
農業会議 岡田課長、多田課長補佐  
松井コーディネータ
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役



## 2 地区の特徴、状況、課題

- 木津川市は京都府の最南端に位置し、近鉄、JRが走り、京都市や奈良市、大阪市への利便性も良く、また京阪奈文化学術研究都市に位置することから急速に都市化、宅地開発が進み、人口が増加している。
- 高齢化と鳥獣被害により、農業全体の生産力が低下する一方で、若い担い手も多く存在し、野菜等収益性の高い農業が営まれている。

## 3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 現地推進役が遊休農地の活用について、事務局が農地パトロールの結果概要を報告した。
- 農業会議岡田課長から地区連絡会議の意義と進め方について報告した。
- 松井コーディネータが委員と事務局等とのつなぎ役となり、地区連絡会議の実施について意見交換を行った。
- 委員からは、鳥獣被害は府や市の責任、被害を無くさないと農業振興も何も無い。
- 減反政策で米を作るなと言ひ、今は米を作れ、遊休農地を無くせと言う、国は無責任。
- 農業委員には権限があるが、農地利用最適化推進委員には権限が無い等の意見がだされた。
- 地区連絡会議で意見交換するには大きすぎる課題に終始し、木津川市の課題にまで至らなかった。

## 4 活動結果

- 情報・意見交換 **2** 時間
- 担い手への集積 **a** 増加
- 遊休農地面積 **a** 解消
- 新規就農者 **人** 支援